

（鯖街道熊川宿 案内地図：下ノ町【設置場所：下の町駐車場前】）

熊川宿：下ノ町地域

熊川宿は、若狭地域と京都の首都を結ぶ主要な交易路である若狭街道に沿った物資の輸送を促進した、繁栄した宿場町でした。歴史ある町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の 3 つのエリアに分かれています。

下ノ町地域

熊川宿のこの地域は、小浜の港町に最も近い所です。ここは、若狭街道を旅する途中で宿泊するたくさんの旅人へ宿とおもてなしを提供しました。下ノ町の入口近くにある石碑は、熊川宿で親孝行の鑑とされる与七よしちという男に供えられています。与七と彼の妻は、彼ら自身が非常に貧しかったにもかかわらず、彼らの年老いた両親が空腹になることは決して許しませんでした。この近くにある、与七にちなんで名付けられた休憩施設は、展示会や体験講座、若狭文化についての講義を開催することに使用されています。

下ノ町は、1912 年に京都で創業したミシュラン 3 つ星付きの料亭である菊乃井きくのいの創設者の村田むらた寅吉とらきちの旧居がある場所です。菊乃井の 3 代目オーナーである寅吉の孫の助けを借りて、建物は改装され、若狭地域の食文化を紹介する村田館として再生しました。

下ノ町と中ノ町間の道路には、まがりと呼ばれる L 字型の曲がり角があります。同様の構造物は、潜在的な攻撃者の速度を低下させるため、防御目的で城下町によく建設されました。15～16 世紀のある時には熊川宿の近くに山城があり、当時は町の西端にこの曲がり角があったと考えられています。現在のまがりの位置は、下ノ町が熊川宿の他の地域よりも比較的後になって開発されたことを示唆しています。それにもかかわらず、下ノ町は上ノ町や中ノ町と同様の雰囲気を持っており、多くの伝統的な町屋があり、そのほとんどは現在は個人の住居となっています。